

二級河川春木川水系の流域の概要について（概要版）

流域及び河川の特性

- 岸和田市の神於山（こうのやま）に源を発し、山間部を北方向に流下し、尾生町（おびちょう）付近で北西方向に曲流し大阪湾に注ぐ二級河川。
- 流域面積は14.4 km²、流路延長は約10.0 km（二級河川指定区間5.7 km）。全流域が岸和田市に包括される。
- 下流域は市街化が進み、工場、住宅が密集。河道は両岸鋼矢板護岸の上部にブロック積及び擁壁で構成された単断面河道。感潮域のため常時一定水深があり、河道内に植生は見られない。川幅20~30m。河床勾配1/1000~1/500。
- 中流域は住宅地が広がる共に、中央公園が隣接するなど沿川では緑空間の多いエリアである。河道は両岸コンクリートブロック積護岸の単断面河道。一部環境護岸（緑化ブロック等）も施工。河道内のみお筋は蛇行し発達した砂洲上に植生が繁茂している。川幅18~20m。河床勾配1/300。
- 上流域には久米田池や古墳群など歴史的資産が多く見られる。河道は両岸コンクリートブロック積護岸の単断面河道。河道内には植生が繁茂し一部ではヤナギ類が見られる。川幅11~18m。河床勾配1/300。
- 植生は河道内には主にクサヨシ、ミソソバ等が多く見られ、上轟橋~平寿橋では、大阪府レッドデータブックで絶滅が危惧されるフジバカマ、カワチシャの湿生植物が確認されている。流域では、蜻蛉池周辺に二次林であるモチツツシ-アカマツ群集が分布。久米田池の周辺には、ケヤキムクノキ林や竹林が一部見られる。

- 魚類は全川を通してコイ、ギンブナ等の止水域や緩流域を好む種が多い。東谷橋付近では環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ種に指定されているメダカ、中央公園付近では大阪府レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ種に指定されているドジョウも確認されている。春木橋下流付近では外来種であるブルーギル、ブラックバスも確認されている。



新春木橋より上流



額橋より上流



下轟橋より下流



上轟橋より下流

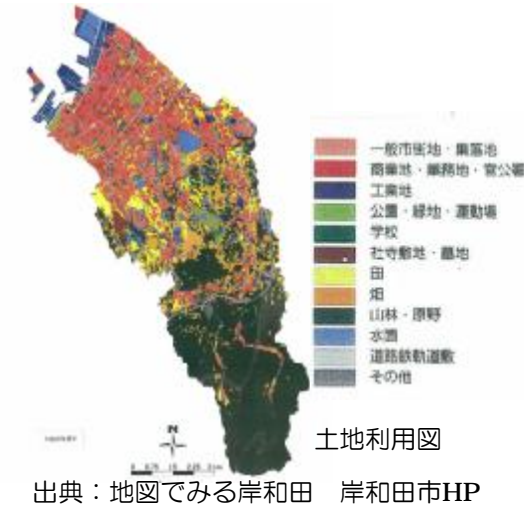
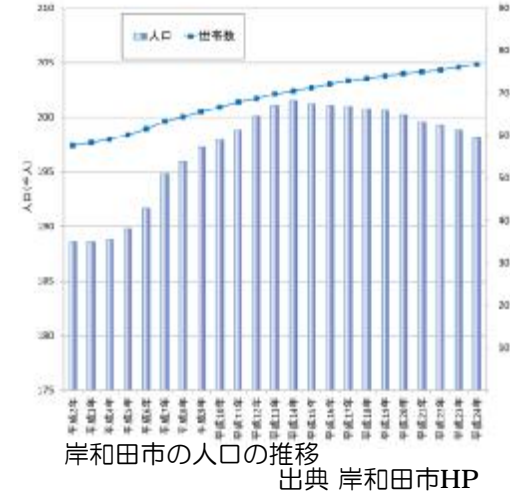


平寿橋より下流



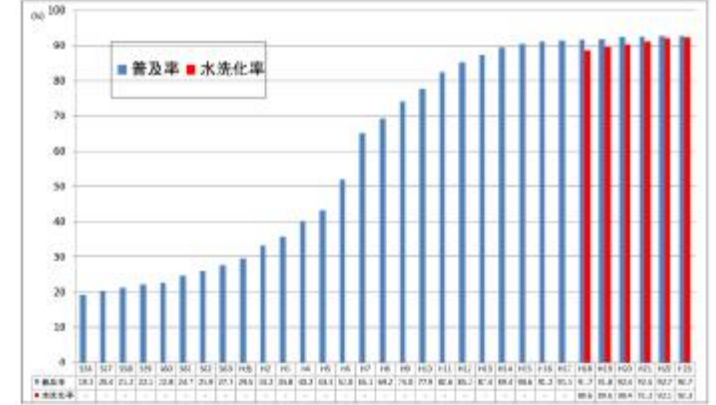
人口等

- 岸和田市の人口は、平成24年度末時点で約19.8万人。
- 現在の人口はやや減少傾向。
- 岸和田市の36.1%がDID地区。
- 岸和田市の土地利用は平成25年度では、宅地が約34%、農地（田及び畑）約23%、山林が約10%となっている。



水質

- 春木橋地点が環境基準点となっており、環境基準はD類型（BOD8mg/L以下）に指定されている。
- 沿川には工場群が集中していることや、高度経済成長期からの宅地開発に伴う生活排水の流入で、長年にわたって環境基準を満足できない状態が続いていたが、近年、下水道整備の進捗等により改善がみられる。
- 平成15年度以降は環境基準を満足し、現在は、C類型（BOD5mg/L以下）に近付いている。



水利用・空間利用

- 水利用
- かんがい用水にのみ利用。4件の慣行水利が届け出されている。
 - 河道改修に伴い4件の堰はすべて可動堰となっている。

- 空間利用
- アドトリバー・プログラムや春木川一斉清掃などにより市民による美化活動が盛んに実施されている。



春木川におけるアドプト・リバー・プログラム

名称	団体名	認証年月日
1 アドプト・リバー・常磐	Gvk常磐	H16.8.1

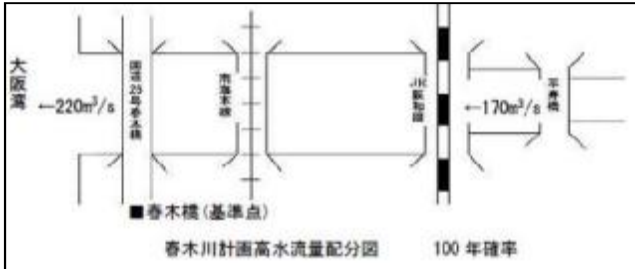


治水事業の概要

- 春木川流域では、過去の台風、豪雨により、昭和57年に15戸、平成元年に34戸、H7年に4戸の床上浸水が発生している。
- 昭和46年から高潮対策事業として、伊勢湾台風級の超大型台風に対応できる高潮堤防が平成3年に完成。
- 昭和56年からは河川改修事業として、1/100年対策が進められてきた。

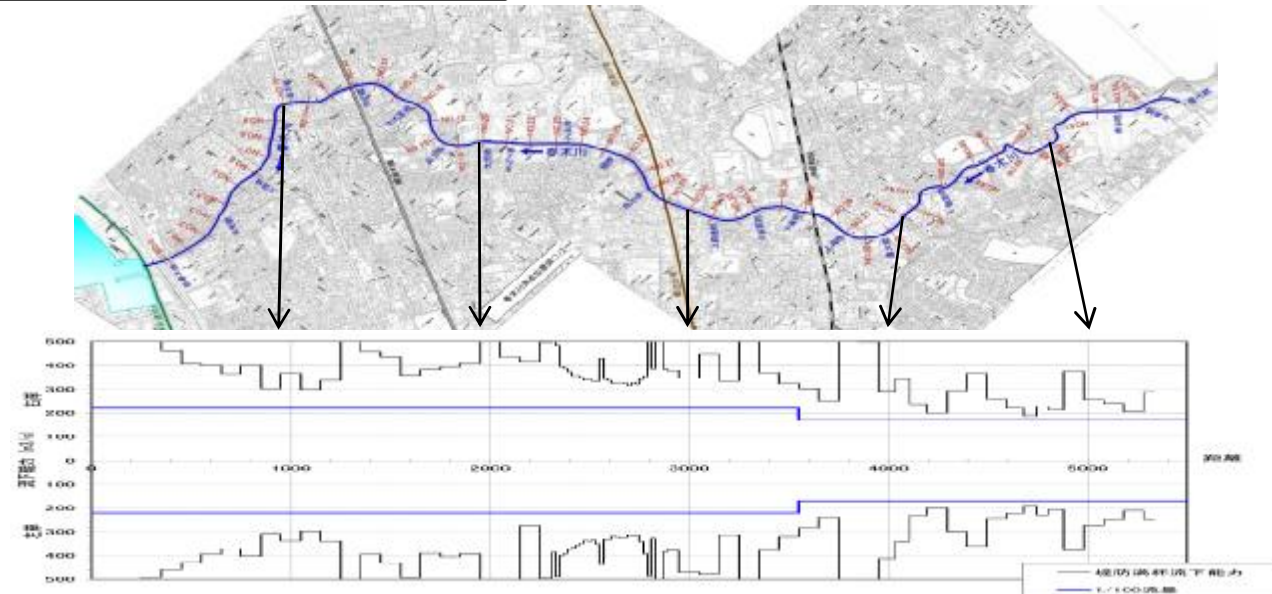
年度	実施事業名	最大雨量(mm)			主な事業内容
		過去最大雨量	最大雨量	最大雨量	
昭和57年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成元年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
H7年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成10年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成11年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成12年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成13年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成14年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成15年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成16年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成17年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成18年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成19年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成20年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。
平成21年	高潮堤防	9月20日	110	110	高潮堤防の完成により、過去最大雨量の発生時に床上浸水が発生しなかった。

既往の治水計画の概要



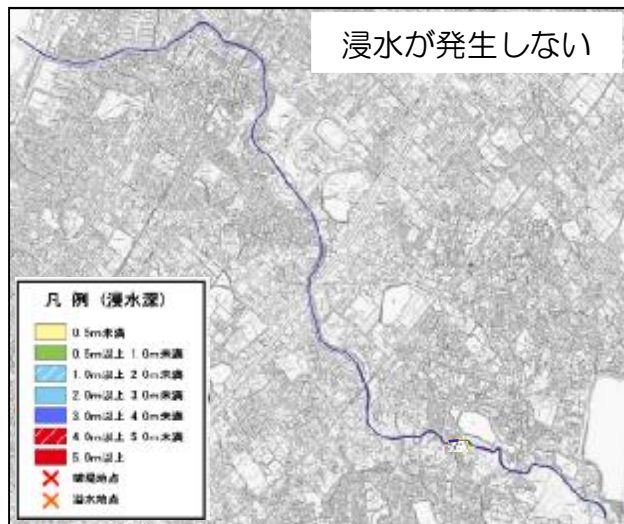
- 対象降雨量
 - 時間最大雨量 (1/100) : 71.5mm/hr
 - 「平成8年度版(泉北地区)確率年別降雨強度式」より算出
- 対象降雨波形 : 中央集中型モデルハイエト
- 流出解析手法 : 合理式法

現況流下能力図



現況河道における氾濫解析結果

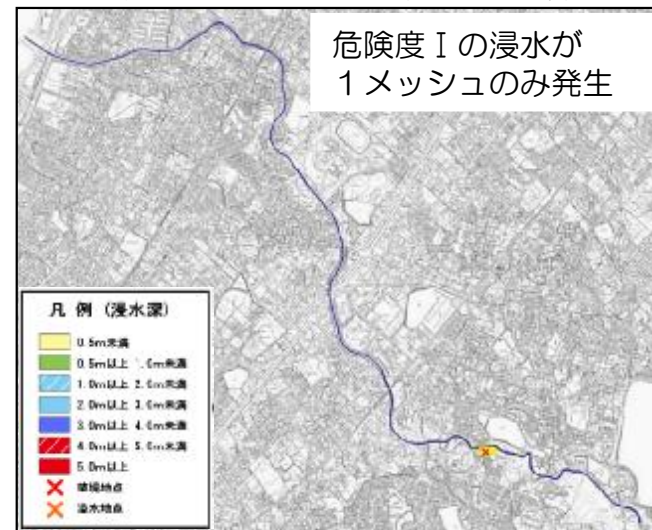
時間雨量71.5ミリ (1/100年)



洪水リスク図 1/100

1/100年対策の治水対策としては完成

時間雨量78.1ミリ (1/200年)



洪水リスク図 1/200

出典 「H23年度春木川外河川氾濫解析検討業務」

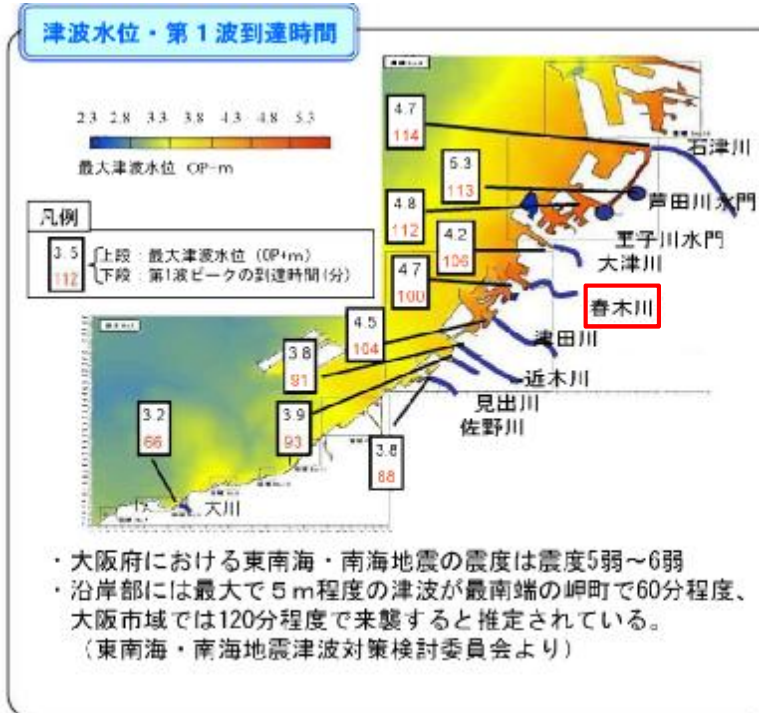
耐震事業

- 平成21年3月に策定した大阪府都市整備部地震防災アクションプログラムに基づき、近い将来に発生が予測されている東南海・南海地震等の海溝型地震に対応した耐震補強を実施している。



春木川堤防耐震化工事対象区間の状況

泉州地区における津波水位及び対策箇所



- (背景)
- 大阪府南部の泉州地区においては河川周辺の都市化により人口資産が集中。
 - 東南海・南海地震については以下のように想定されており津波・耐震対策が喫緊の課題となっている。
 - ・30年以内に発生する確率が50%以上
 - ・泉州地区の河口付近では最大5m程度の津波が来襲

耐震対策事業の概要

- 堤防等の液状化や耐震性の検証を実施。
- 泉州地区の7河川(総延長8.2km)、2水門において津波による被害が発生する恐れがあることを確認。
- それらの河川・水門において液状化対策等の耐震対策を実施する。

【堤防補強 L=8.2km】

- ・石津川 : L=1.9km
- ・大津川 : L=1.4km
- ・春木川 : L=1.9km
- ・津田川 : L=0.6km
- ・見出川 : L=0.6km
- ・佐野川 : L=1.6km
- ・大川 : L=0.2km

【水門耐震補強】

- ・芦田川
- ・王子川



出典 「大阪府における河川防潮堤・堤防における耐震対策 H21」大阪府HP